

「今、何の病気が流行しているか！」

(川崎市感染症発生動向調査事業—令和4年第45週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和4年第45週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和4年第45週（令和4年11月7日から令和4年11月13日まで）

第45週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3）手足口病でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.06人と前週（3.19人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.89人と前週（0.50人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

手足口病の定点当たり患者報告数は0.33人と前週（0.64人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

今週のトピックス

“梅毒の報告数が過去10年間で最多に！”について取り上げました。

川崎市における梅毒の報告数は、今年は第45週（11月7日～13日）までにすでに計93件と、過去10年間で最多となりました。

梅毒は、梅毒トレポネーマを病原体とする感染症で、主に性的接触により粘膜や皮膚の小さな傷などから感染します。病期により様々な症状が出現し、無治療のまま症状が消失する時期もあります。また、潜伏期間の間に人に感染させる可能性もあり、気付かないうちに感染が拡大することがあります。特に、妊婦が感染し適切な治療が行われなかった場合、胎児が先天梅毒（皮膚病変、肝脾腫、奇形等）を発症する可能性がありますので、感染の可能性がある場合はすぐに医療機関を受診しましょう。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

連絡先 川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 野木
電話044（200）2446
川崎市健康安全研究所 三崎
電話044（276）8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

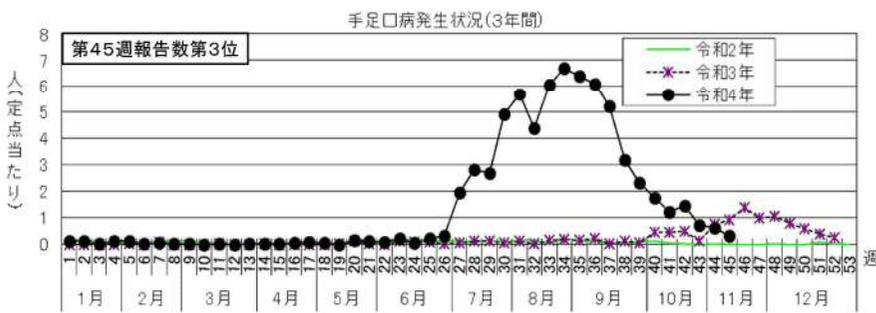
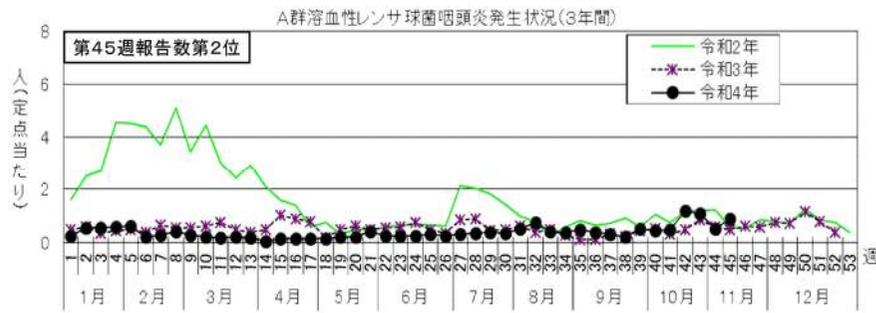
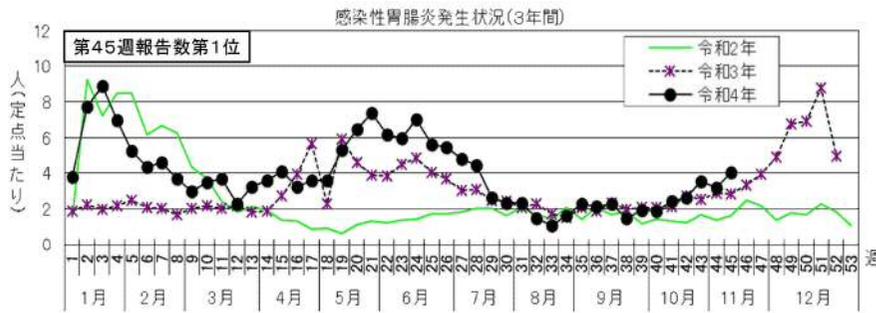
令和4年11月7日（月）～令和4年11月13日（日）〔令和4年第45週〕の感染症発生状況

第45週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 手足口病でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.06人と前週（3.19人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.89人と前週（0.50人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

手足口病の定点当たり患者報告数は0.33人と前週（0.64人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



梅毒の報告数が過去10年間で最多に！

川崎市における梅毒の報告数は、今年は第45週（11月7日～13日）までにすでに計93件と、過去10年間で最多となりました。

梅毒は、梅毒トレポネーマを病原体とする感染症で、主に性的接触により粘膜や皮膚の小さな傷などから感染します。病期により様々な症状が出現し、無治療のまま症状が消失する時期もあります。また、潜伏期間の間に人に感染させる可能性もあり、気付かないうちに感染が拡大することがあります。特に、妊婦が感染し適切な治療が行われなかった場合、胎児が先天梅毒（皮膚病変、肝脾腫、奇形等）を発症する可能性がありますので、感染の可能性がある場合はすぐに医療機関を受診しましょう。

梅毒とは？

病原体：梅毒トレポネーマ

感染経路：性的接触等

潜伏期間：3～6週間

主な症状

- 第Ⅰ期（感染後約3週間～）：局所にしこりや潰瘍等の皮膚病変、無痛性のリンパ節腫脹等
- 第Ⅱ期（感染後約3か月～）：手掌や足底を含む全身に皮疹、粘膜疹等
- 晩期（感染後数年～）：心臓や血管等の病変

治療：抗菌薬治療



川崎市における梅毒発生状況(10年間)



※先天梅毒を予防するためのポイント

- ・定期的な妊婦健診
- ・疑わしい症状がある場合の梅毒検査
- ・梅毒診断時の早期治療
- ・妊娠中の安全な性交渉

